

雲去歸盡黛眉橫 點染溪頭六曲屏 春入翠微殘照紫 天含空碧斷峰青 城藏綠樹江明滅 人沒蒼煙路渺冥
定有子真耕谷口 移文不費北山靈

【読み】

雲は去り帰り尽くれば黛眉（たいび）横たわり 溪頭を点染（てんせん）して六曲（りくきよく）の屏（びよう）
微（すいび）に入りて残照（ざんしょう）紫に 天は空碧（くうへき）を含みて断峰（だんぽう）青し 城は緑樹に隠（かく）
れ江は明滅（めいめつ）し人は蒼煙（そうえん）に没して路（みち）渺冥（びようめい）たり 定（さだ）めて子真（ししん）
（谷口（こくこう）に耕し 文（ふみ）を移して北山（ほくざん）の霊を費（つい）やさず。

【意味】

靈谷山では、雲がすっかりなくなつて、そのあたりが見えると、遠くの山々が黛（黒く細い眉）のように横たわっている。
溪流のほとりは彩りを増し、六重に連なる屏風のようだ。春になつて山のうす緑の靄に夕陽が照つて紫色になり、天は澄み渡
り、碧空に包まれ、切り立った峰は鮮やかな青を映している。城は緑の木々の中に隠れ、川の流れは明るくなつたり暗くなつ
たりと揺らめいている。人影は蒼く立ち込める霞の中に消え、道は遠くぼんやりとした先へ続いている。きつと谷の入り口
では、隠者の子真が農作業をしているに違いない。その暮らしには、北山の神々の助けをわざわざ借りる必要もないだろう。

*点染…点を打つようにして染めることを意味し、転じて「とどころどころに色や模様がつく」「部分的に彩られる」こと *渺冥…広々として果てしなく、か
すんでいてはつきりしないこと *子真…後漢の隠者・許子真（きよししん）を指す。彼は俗世を離れ、静かに農耕に勤しむ生活を送つたと伝えられている。
*移文不費北山靈…「北山の霊」とは、南朝齊の文学者・孔稚珪（こうちけい）の作品『北山移文』を指している。『北山移文』は、隠者に対し
て官職に就くことを拒む思想を表した公文書であり、隠遁生活の価値や高潔さを称賛する作品です。詩中の「文を移すに北山の霊を費やさず」
を現代語に訳すと、『北山移文』のような手紙を送って説得する必要もない」となります。つまり、隠者である子真（ししん）は、すでに自ら
の意思で隠遁生活を選択しており、わざわざ『北山移文』のような説得をする必要がない、という意味を表している。

【出典】靈谷山 宋・劉迂